由緒札一覧

NO.	十王堂由緒札	紀年		内容
		年号	西暦	
1	「文政九年三月十慈王堂再修建棟札」	文政9年春	1826年	十王堂の再修理と瓦葺き替えについて記されています。
2	「十王尊由緒書文政九年写札」	文政9年3月	1826年	表面には「現廣徳黙叟書写　文字依没字　文政九年丙戌年三月写之」と記されており、これまでの記録が読めなくなったため、文政9年に書き写したとあります。 この由緒札によると、十王堂と十王像等（十王像（10躯）、司命像、司録像、奪衣婆像、檀拏幢・業秤、浄玻璃鏡の台座）が完成したのは、寛文13年（1673年）仲冬（11月）15日と記されていますが、寛文13年は9月21日に改元されているため、正確には延宝元年（1673年）に完成したと考えることができます。 裏面には、享保9年（1724年）、宝暦7年（1757年）、安永8年（1779年）、寛政11年（1799年）とそれぞれに「当郷善男子善女子再興荘厳」と記されており、これらの各年に像や建物の修理が行われた記録と考えることができます。
3	「安政六年四月十慈王尊再修建棟札」	安政6年初夏	1859年	安政6年の十王像等と十王堂の修理について記されています。
4	「安政六年四月十王像体再修銘札」	安政6年初夏	1859年	
5	「安政六年四月三界万霊供養札」	安政6年初夏	1859年	
6	「明治二十一年八月十大将王堂再修建棟札」	明治21年	1888年	十王堂の修理について記されています。
7	「明治四十年旧七月地蔵菩薩及十王将尊像再修銘札」	明治40年旧7月1	1907年	十王像等と共に十王堂で祀られている地蔵菩薩像と十王像等を修理したことが記されています。司録像が持っている書巻に記された墨書とともに、明治40年に再彩色が行われたと推測できます。